

「美六姫」待望デビュー

町内施設で数量限定販売

田子町独自のニンニク

田子町が開発したニンニクの独自品種「美六姫」の販売が11日、町ガーリックセンターで始まった。品種登録されてから3年目で待望の市場デビューとなり、生産者や町関係者が、全国的に有名な田子産ニンニクのさらなるブランド力向上に期待した。

美六姫は、実の白さや形の良さなどを特徴とする。町内で古くから栽培されている「福地ホワイト種」が元になっており、青森県産業技術センターの協力で2010年、開発に着手。17年10月に農林水産省の品種登録を受けた。



美六姫の販売が始まった田子町ガーリックセンターの売り場
=11日

登録後は、生産拡大を図るため、種子の増殖に充てており、19年産が市場デビューとなる。当初は生産者主体の出荷体制を想定したが、準備が間に合わず、町ガーリックセンターの運営団体が臨時で販売を担うことになった。

同日は、同センターで、直径8センチの2Lサイズ1玉を360円（税込）、7センチのLサイズ3玉と6センチのMサイズ5玉をそれぞれ600円（同）で販売した。美六姫の栽培面積は徐々に拡大しているものの、町内のニンニク全体のまだ1割ほどで、19年産は10割ほど。種子用に残す分などを除けば、販売に回るのは5割程度という。

数量限定で希少な商品となるが、価格水準は従来の田子産ニンニクと同一に設定した。町では美六姫の特徴の分析を進めており、将来的に優位性が裏付けられれば、さらに付加価値を付けられるという。

県内で購入できるのは同センターのみで、施設内のレストランでも味わえる。他に首都圏の物産イベントなどで提供される予定だ。

同日、同センターで会見した山本晴美町長は「私たちがとって宝物。農家の希望となるよう育てていきたい」と大きな可能性に期待。地元元農家50人で組織する美六姫生産者の会の上平満広会長は「栽培方法の確立などの課題があり、伸び代はまだある。町に欠かせないニンニクになってほしい」と願った。

（金澤一能）

令和元年12月12日
デーリー東北 掲載

※この画像は、当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。